

# ひまわり

令和6年2月号



↑カラー版はこちらから

## 「校外学習について」

校長 門脇 伸也

日ごとに春めいてまいりました。

さて、2月27日、中学部の遠足が無事終了致しました。この日の目的地は、上野の国立科学博物館でしたが、8名の生徒が参加することができました。建立900年の『中尊寺金色堂展』の特別展を見学しました。生徒は、平泉の文化遺産で世界遺産にも登録されている金色堂について、事前学習を行った上で遠足に参加しています。当日は大勢の見学者がいましたが、生徒一人一人教員からの説明を受けながら、お目当ての展示を見学していきました。国立博物館へ来たのが初めてという生徒たちは、天井の高い、厳かな造りの部屋を見て、身体全体で博物館の雰囲気を感じていました。見学後、スクールバスで上野小路へ移動し、中華料理店で舌鼓を打ちました。中華料理に特有の円い大きなテーブルで友達と食事をするのは初めてということもあり、とても和やかな食事となりました。この遠足でどんなことを学び、何を成果として持ち帰ってきたか、まとめが楽しみです。

今後の予定としては、中学部の生徒が3月1日に都立永福学園中学部との交流を行います。また、中学部で、養護学校近くの西新宿郵便局へ行って、郵便物を投函するという体験も予定しています。

大小様々な校外学習の実施を、コロナ禍の4年間は縮小していましたが、令和5年度は少しずつ再開しました。9か年を見通した上で、それぞれの学年の学習内容に合わせた活動内容となるよう、見学先や体験場所の選択についてさらに整理をしております。児童・生徒の障害や特性を考慮すると、見学先や体験場所の決定は容易ではありませんが、スクールバスで安全に移動できる距離を念頭におきながら目的地を検討・決定し、駐停車場所を確保した上でバス会社の協力を得ながら安全に実施してまいります。

校外学習における児童・生徒の体調については、保護者の方と連絡を密に取りながら当日を迎えるのですが、季節の変わり目や天候に大きく左右されるため、悩ましいところです。春一番が吹いたり低気圧が来たりすることで体調を崩すこともあります。また、杉花粉症等アレルギーも体調を崩す大きな原因となる児童・生徒もおります。当日までの体調管理はできていたのに、校外学習への期待感から気持ちが高ったことで睡眠が充分にとれず、体調を崩してしまい当日は欠席することになった、そんな事例も過去にはありました。児童・生徒の体調管理で困った時はご相談ください。

さらには、校外学習の実施の上で、適切な食形態を提供してくれる飲食店があるかどうか大きな課題となります。今回、中学部の遠足では、中華料理店にてペースト食を提供していただきました。学校給食で提供される初期・中期食の質の高さを再認識いたしました。店内のスペースが広くて形態食を提供してくれる飲食店など、有益な情報がありましたら学校へ情報をお寄せください。今後も、校外学習が児童・生徒の豊かな体験となるよう、質を高めるための様々な工夫をしていきたいと考えております。

最後になりますが、3月22日（金）、第46回卒業証書授与式を挙行いたします。来賓の皆様と卒業生の御家族の皆様、在校生・教職員一同で、卒業生の門出を祝いたいと思います。良い日となりますことを願っております。

みんなで一緒に囲った円卓 ↓



## 「連合作品展」

1月26日から2月7日まで、新宿中央公園内のエコギャラリーで連合作品展が行われました。

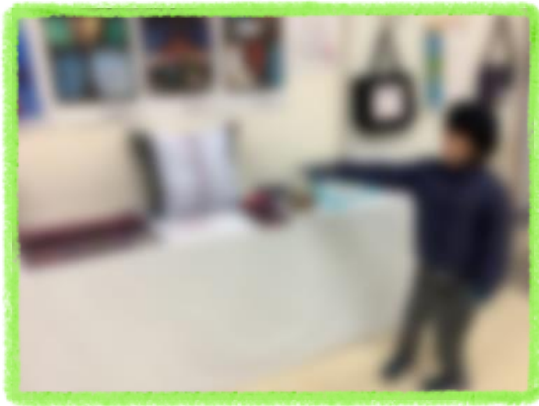
低学年こすもす・すみれグループは、ベニヤ板とマスキングテープを使ったスクラッチアート作品と、ザルとブラシを使って色の広がり表現したスパッタリングアート作品を展示しました。

高学年こすもす・すみれグループは、陶芸として植木鉢、染色として藍染のバッグ、はじき絵、ろくろでドローイングの作品を展示しました。

つくし・ばら・ダリアグループは、様々な素材に絵の具を付けて画用紙にスタンプし、写した形からイメージを膨らませて題名をつけた平面作品と、紙粘土の立体作品、2点を展示しました。

中学部は、ゴッホの「ひまわり」をテーマに描いた平面作品と、様々な技法を使って和傘に描いた水墨画の立体作品の2点を出品しました。

今年度は、4年ぶりに直接見学することができ、自分たちの作品はもちろん、新宿区内の支援学級の児童・生徒の作品も見学できる良い機会となりました。自分の好きな食べ物の作品を見つけたり、光沢のある作品を見て目を輝かせたり、それぞれが楽しんで鑑賞することができました。



## 「臨場感満載の人形劇！」

2月2日に芸術鑑賞教室・人形劇団ひとみ座人形劇「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」が行われました。音読コンクールで優勝したい女の子や大泥棒になりたい男など、様々な願いをもった人たちが不思議な駄菓子屋・銭天堂の駄菓子に巡り合い、特別な体験をするという物語です。いつも使っている体育館が、不思議な駄菓子屋に変身！人形が目の前で生き生きと動き、会話し、賑やかな音楽やカラフルな照明が物語を盛り上げ、別世界に訪れたような1時間でした。笑いや驚きに満ちた舞台に、子どもたちの目もきらきらと輝いていました。終わった後は、「面白かった！」「また観たいな」という感想の声が聞こえ、とても素敵な芸術鑑賞教室になりました。

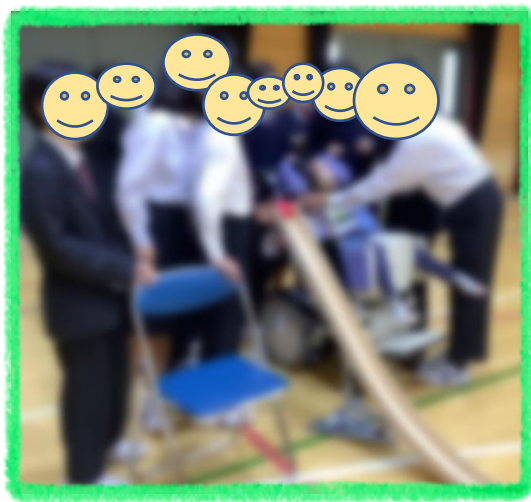


## 「令和5年度副籍交流を振り返って」

昨年5月に、新型コロナウイルス感染症の位置付けが「5類感染症」に移行したことにより、およそ3年ぶりに通常ルールでの交流がスタートしました。今年は通学籍の児童・生徒32名中27名が副籍交流を希望し、うち16名の児童・生徒が直接交流を実施しました。全体では交流学級での感染状況により2ケースが当日交流を中止したものの、延べ31回の直接交流を実施いたしました。保護者の方には御準備や引率、また当日の急な御対応など、数々の御協力をいただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。

東京都で副籍制度が始まって今年で17年目を迎えます。その目的は今も変わらず、特別支援学校に在籍する児童・生徒にとっては地域の学校に副次的な籍をもつことで地域とのつながりを深めるということ、また地域指定校の児童・生徒にとってはお互いの違いを認め合うことを通して尊重する心を育むということ、そして地域社会にとっては共生地帯を実現するという、この3つの理念を実現すべく実施されてきました。平成27年度には希望の有無に関わらず全員が副籍をもつようになり、制度はさらに発展してきたと言えるでしょう。

しかし、コロナ禍での空白の3年間を経て、そうした理念や活動の継承が残念ながら中断されてしまったことを実感しています。副籍交流未経験者の割合も増え、地域指定校との打ち合わせでも初めて経験するという教員や管理職の先生方の声が多く聞かれ、副籍交流の具体的なイメージがもちにくい状況が見られました。しかし、お互いの学校の事情や要望について丁寧なやりとりを繰り返す中、両校が歩み寄り、1回目、2回目の交流を経てお互いを知り合える心温まる交流が多く実施されました。直接会って時間を共有することで、児童・生徒、また、教職員にとってもたくさんの学びを得ることができたと感じています。保護者の方からのアンケートでは、「家の周辺で副籍校のクラスの子どもたちがよく声をかけてくれるようになり、大変嬉しく思っています。」という御意見もいただきました。これからも学校は、児童・生徒が安心して地域で活躍できるようパイプ役としての役割をしっかりと担っていきたいと考えています。



## 「伝えたい気持ち」

2月16日、本校教職員向けの全校研修を行いました。言語聴覚士の久保田絢子先生から「ことばの発達について」をテーマにお話をいただきました。

子供たちが言葉を分かるようになるには、まず規則正しい生活や、十分な運動、遊びなどの体験が土台にあり、そこから「伝えたい」という気持ちが出てくるのが大切であると説明がありました。そして、コミュニケーション力を育てるための具体的な子供への接し方として、その場その場で「今の言い方が良かったよ」「お口でニコッと教えてくれたんだね」とフィードバックするなどの方法を教えていただきました。

日々の学校生活の様々な場面で、子供たちの「伝えたい」という気持ちを汲み取り、そこに丁寧に言葉を添えて、子供たちのコミュニケーション力を伸ばしていきたいと思えます。

